

柱状図(161.00m~171.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア 長 (cm)	R Q D (%)	記事
170			+	花崗斑岩	にぶい 緑灰	CH'	100	13	26			<p>161.10~161.69m: φ5mm前後と大型な暗緑色・緑泥石を斑点状に含む。このうち、上端側の161.10~161.24mは石基も含む全体で緑泥石化が進み、緑灰色を呈する。</p> <p>161.70~161.90m: 割れ目交差部の一部で片状化するが岩片は堅硬で、粘土や砂をはさまない。</p> <p>162.12~162.18m: φ10mm前後と大型な橙色のかり長石が点在する。</p> <p>162.46~162.57m: 80~90°のゆ着割れ目が5~20mm間隔で平行に分布。密着度が低く、ハンマーの強打で分離する。</p> <p>162.57~166.65m: B 堅硬、塊状でコア長20cm以上の長柱状コア主体。</p> <p>一部に厚1~2mmの白色筋状のゆ着割れ目が発達するが、密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。</p> <p>ゆ着割れ目には石英を脈状にはさまるものも多い。</p> <p>橙色のかり長石が濃集する部分も含み、この部分では色調が橙色系(にぶい橙色など)を呈している。</p> <p>緑泥石化は割れ目やゆ着割れ目では殆んど分布せずφ2~5mmの斑点状などとして晶出している。</p> <p>163.50~163.60m: 高角度割れ目が交差し、一部で片状化するが岩片は堅硬で、砂や粘土ははさまない。面の一部に黄鉄鉱が晶出している。</p> <p>164.00~164.30m: φ10mmと大型・橙色のかり長石と同径・緑灰色の緑泥石が混在する。</p> <p>164.50m: φ5mm緑泥石晶洞。石英などの2次鉱物を伴っている。</p> <p>164.94m: 70°密着割れ目上盤側に厚さ2mmの石英脈が緑泥石を伴って分布。上下端境界は堅硬。</p> <p>164.95~165.89m: 橙色のかり長石の含有が上下位に比べ多くなり、色調も橙色系(にぶい橙色)を呈する。</p> <p>165.32m: 70°割れ目は165.32mでφ6mmの橙色かり長石を切断している。また交差する割れ目の一部も切っている(見掛け変位量2~5mm左ズレ)。本割れ目面には鏡肌も認められる。</p> <p>165.80~166.10m: φ10~20mmの石英が多く晶出している。</p> <p>一部は他形の結晶型を示すため熱水変質で緑泥石と共に晶出した2次石英である。</p> <p>166.44~166.47m: φ10mm斑状~長20~30mm幅5mmのレンズ状で石英が晶出。</p> <p>166.65~167.21m: CH 一部でやや割れ目が多いが、岩片は堅硬で、粘土や砂などの挟在物は分布しない。</p> <p>167.00m以深では緑泥石化が進み、暗緑灰色を呈する。</p> <p>167.21~167.55m: CM 白色筋状のゆ着割れ目が交差し岩片状に砕けているが岩片は堅硬で挟在物は分布しない。</p> <p>167.55~169.66m: CH 堅硬、塊状で、コア長20cm以上の長柱状コアも含むが、10~20cmの柱状コア主体。</p> <p>白色筋状のゆ着割れ目も含んでいるが密着度は高くハンマーの強打でも分離しない。</p> <p>全体に緑泥石化し、φ2~3mm暗緑灰色の斑点状に晶出して点在する。割れ目やゆ着割れ目ぞいに分布するものは少ない。緑泥石化が強い部分は色調が暗緑灰色を呈する。</p> <p>割れ目には粘土、砂などの挟在物は分布しないが、一部で緑泥石化や黄鉄鉱晶出部が認められる。</p> <p>169.19~169.41m: 緑泥石化が進み暗緑灰色化する。</p> <p>軟化は伴わず堅硬。</p> <p>169.50m以深、φ2~3mmの緑泥石が斑点状に多く晶出。</p> <p>169.66~172.69m: B 堅硬、塊状で割れ目が少ない。</p> <p>一部に白色筋状のゆ着割れ目が分布するが密着度が高く、分離しない。</p> <p>169.67~170.22m: φ2~3mmの暗緑灰色緑泥石が斑点状に多く晶出。</p> <p>170.20~170.65m: 60~70°のゆ着割れ目が数本分布するが密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。</p>
					にぶい 褐	B'	100	35	68			
					にぶい 褐		100	37	73			
					にぶい 灰白	B'	100	35	100			
					にぶい 褐		100	46	98			
					にぶい 褐	CH'	100	63	77			
					暗緑灰		CM'	100	21			
					にぶい 褐	CH'	100	25	69			
					暗緑灰		100	18	43			
					にぶい 褐	B'	100	77	91			
					褐灰							

柱状図(171.00m~180.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm)	記事				
												R	Q	D	
				花崗斑岩	褐灰 に ぶ い 褐 褐 灰 灰 白 褐 灰	B'	100	49	87		171.00~171.08m: φ10mmの大型で橙色のかり長石が晶出し点存在する。 171.29m: 割れ目が交差するが交差部周辺は片状化しない。 171.85m: 割れ目が交差するが交差部周辺は片状化しない。 172.32~172.53m: φ2~3mm暗緑灰色の緑泥石が幅0.5~1mm石英細脈を伴って、斑点状に晶出、点存在する。 172.69~174.13m: CH 堅硬、塊状でコア長20cm以上の長柱状コアも含むが10~20cmの柱状コア主体。一部で緑泥石化し、割れ目やゆ着割れ目によって細脈状~φ1~2mmの斑点状に晶出している。割れ目面には砂や粘土ははさまない。細脈部には石英を伴うこともある。 173.66~173.73m: 密着度の低いゆ着割れ目10~20mm間隔で分布。ハンマーの強打で分離・細片化するが粘土や砂など挟在物は分布しない。 173.93m: 43° 割れ目はφ5mmの橙色かり長石を切っている。 174.13~175.55m: B 堅硬、塊状で一部の割れ目交差部で区間長約10cm片状化するが、コア長20cm以上の長柱状コア主体。一部に白色筋状のゆ着割れ目を含むが密着度は高くハンマーの強打でも分離しない。上位に比べ緑泥石化は弱くなる。 175.15~175.22m: 割れ目が交差し片状化するが、岩片は硬質で割れ目面には挟在物は分布しない。 175.55~176.50m: CH 堅硬、上下位に比べやや割れ目が多いがコア長10~20cm(Ⅲ)が主体。ゆ着割れ目も含むが大半は密着度が高くハンマーの打撃でも分離しない。 175.45~175.71m: 片状化するがコアチューブ引上げ時に片状化した可能性が高い。岩片は硬質で挟在物は分布しない。面の一部は赤褐色化し、断片的に鏡肌も認められる。赤褐色部は褐鉄鉱である可能性がある。 176.50~176.78m: CM 割れ目が交差し短柱状~一部岩片状を呈する。 176.59~176.62m: 30° 割れ目ぞいに風化(γ)、軟化(D)、砂状~粘土状部ははさまない。 176.78~179.15m: B 堅硬、塊状でコア長20cm以上の棒状コア主体。一部に含まれるゆ着割れ目も密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。上位に比べ緑泥石化が進み、φ2~3mm暗緑灰色斑点状~厚さ0.5mm細脈状で分布する。細脈状のものは大半が周囲とよく密着し、開口化していない。 177.65m: 35° 厚さ2~3mmの石英脈が分布。周囲と同化している。 177.83~178.27m: φ5~10mmと大型で橙色のかり長石が晶出・点存在する。 178.31~178.39m: 上端75°、下端70° 割れ目に囲まれ厚さ25mm、φ5~10mmに細片化している。厚さは25mmでごく薄く砂状化する部分がある。上端面には緑泥石がフィルム状に付着している。 178.45m以深にはゆ着割れ目が多いが密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。 179.15~180.00m: CH 179.37~179.68m: 一部は割れ目交差部で片状化するが、岩片は硬質で面は未風化・未変質で挟在物も分布しない。一部でわずかに緑泥石がフィルム状に付着する程度。ゆ着割れ目の多くはすでに開口割れ目化している。				
									CH'		100	28	58		
									B'		100	62	100		
									CH'		100	28	43		
									CM'		100	14	37		
									B'		100	49	79		
									CH'		100	33	71		
									CH'		100	15	43		
		172.94				180.00									

コア写真(0.00m~18.00m)



コア写真(18.00m～36.00m)



コア写真(36.00m～54.00m)



コア写真(54.00m~72.00m)



コア写真(72.00m~90.00m)



コア写真(90.00m~108.00m)



コア写真(108.00m~126.00m)



コア写真(126.00m~144.00m)



コア写真(144.00m~162.00m)



コア写真(162.00m~180.00m)



H27-B-4

余白

柱状図(0.00m~17.00m)

H27-B-4

孔 口 標 高	T. P.	6.95m	掘 削 長	140.00m
---------	-------	-------	-------	---------

標 尺 m	標 高 m	深 度 m	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	岩 級 区 分	コ ア 採 取 率 (%)	最 大 コ ア 長 (cm)	R Q D (%)	コ ア 採 取 率 (%) 最大 コ ア 長 (cm) R Q D (%)	記 事
					黒		100				0.00~0.22m: 砕石。φ5~50mmの角礫より成る。岩種は砂質頁岩。
							100				0.22~3.10m: 礫混じり砂(盛土)。φ2~20mm程度の礫(角礫~亜円礫)を含む。最大40mm。基質は褐色味を帯びた粗砂が主体。
							100				0.22~1.00m間は比較的礫分に富む。総じて緩く、コアは指圧で容易に凹む。
					明黄褐		100				3.10~6.30m: 砂質礫(盛土)。礫分が多くなる。礫種は花崗岩類、アブライトの他、黒色の砂質頁岩やコンクリート片を混じえる。
							100				φ10~100mmの角礫~亜角礫が多い。
							100				3.30~3.58m: コンクリート片。
							100				3.70~4.00m: この間基質は流失済み。
							100				4.00~8.00m: 花崗岩、花崗斑岩、アブライト等の花崗岩類の礫を多く含む。他、黒灰色の砂質頁岩を少量含む。角礫~亜角礫が主体で礫径はφ10~50mmが多く、最大φ90mm。
							100				基質は細礫及び粗砂。
							100				5.73~6.00m: 基質はやや流失済み。
					明灰褐		100				6.30~7.00m: 砂(粗砂)が主体となる。花崗岩類のφ5~20mmの角礫を含み、きわめて少量のφ10mm以下の頁岩角礫を含む。上位の盛土に較べて、良く締っている。
							100				7.00~7.45m: アブライトの巨礫。
							100				頁岩の補強岩片を含む。
							100				7.45~7.70m: 締った細礫を含む砂(粗砂)。
							100				7.70~8.00m: 花崗岩類の細~中礫が主体。締った粗砂を含む。
							100				8.00~8.20m: 砂(粗砂)が主体となる。
							100				8.20~13.75m: 砂質礫(盛土)。花崗岩類のφ10~50mmの角~亜角礫が主体。大型の礫はアブライトがやや目立つ。最大φ70mm。
							100				少量の黒灰色の頁岩礫が散在する。
							100				10.15m: 幾分炭化した長さ100mmの木片を含む。
							100				11.03~11.52m: 含有礫は総じて小さく中礫以下。
							100				12.05~12.20m: 花崗斑岩の大礫。
							100				12.04m: 木片混じる。
							100				12.51~12.63m: 幾分炭化した木片混じる。
							0	0			13.65~13.75m: 木片混じる。13.75m付近のものは合板であり、明らかにこれより上位は人工地盤である。
					花崗斑岩	D'	100	4	0		13.75~14.67m: 風化が著しく、割れ目の多くは不鮮明となる。
						CL'	100	4	0		14.24m付近、割れ目に沿ったマンガンの汚染が顕著。
					明黄橙	D'	100	3	0		14.53m付近、頁岩礫3個。上部からの前壊物と思われる。
					オリブ黄	CL'	100	3	0		14.67m以深、風化は若干軽微となり、割れ目のほとんどが認識できるようになるが、コアは、軟質で脆い。割れ目に沿った薄い変質脈が白く見られるものがある。
											15.00~15.49m: 低角度の割れ目が優勢。風化により割れ目沿いは劣化。砂~シルト状の細粒物が見られる。コアも軟質である。
											15.52~15.60m: 礫状コア、多くは上部からの前壊物と思われる。
											15.60~15.91m: 割れ目沿いの劣化が著しく脆弱。
											15.91~16.36m: 破砕部
											全体にマンガンで汚染される。
											15.91m: 上盤72°、緑灰色の粘土がやや湾曲しながら厚さ2~6mmで見られる。
											15.91~16.36m: Hi
											16.36m: 下盤76°、灰白色の変質粘土が厚さ25mm程生じている。
											16.36~16.52m: 上位の破砕部と風化の影響で劣化が著しい。
											16.52~17.03m: 割れ目沿いの劣化は顕著で一部礫~砂状となる。

柱状図(17.00m~37.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm)	R Q D (%)	記事	
													0
20			+	花崗斑岩	淡橙	黄橙	100	14	14	●	●	●	17.03~17.86m: 低角度の割れ目が優勢。割れ目沿いの劣化が見られ、コアも軟質で表面はザラつく。 17.86~18.00m: コア表面のザラつきは幾分軽微。 18.00~19.08m: 低角度の微細な割れ目が非常に多い。 18.70~20.00m: 斜長石の風化し軟質となった比較的大型の斑晶が目立つ。 19.57~19.76m: 礫状コアが主体となる。 20.02m付近、きわめて小規模な破砕部(変質部)。幅10~20mm、50°。 20.07m: 小規模な破砕部(変質部)。幅10~40mm、角度30°。 20.23~20.37m: 割れ目沿いに一部細礫状となる。 20.55~20.65m、20.87~20.94m: 礫状となる。 21.36~21.50m: 微細な割れ目に沿ってマンガンの汚染が明瞭。 21.50~22.47m: 割れ目に沿ってマンガンから褐色汚染へと変じる。 22.47~22.55m: 礫状コア、一部は上部からの崩壊物も含まれていると思われる。 23.33m以深、コアは軟質となり、表面はザラつく。 24.13~24.55m: 落下したコアを再採取したものとと思われる。 24.55~25.48m: ノンコア
						浅黄橙	100	15	15				
						CL'	100	9	0				
						CL'	100	5	0				
						CL'	100	11	11				
						CM'	100	7	0				
						CL'	100	5	0				
						CL'	55	5	0				
						CL'	52	18	18				
						CL'	100	14	28				
30			+	花崗斑岩	淡橙	CL'	100	14	28	●	●	●	25.96~26.14m: コアは軟質で表面のザラつきが大きい。 26.40~26.47m: 割れ目沿いの劣化が明瞭、コアも周辺より軟質である。 26.96~27.22m: 岩質が軟質で脆弱である。 27.22m: 剪断性の割れ目。変質も加わり上盤側は緑褐色で幅20mm軟質。角度40°。 27.95~28.00m: 剪断性の節理が局所的に集中し脆弱となる。 28.24m: 低角度で幅10mm砂~礫状となる。上下盤はシャープ。 29.48~29.91m: 微細な割れ目が集中し、かつコアは軟質となる。29.59m以深では、微細な割れ目はマンガンに汚染される。 29.60~29.70m: 剪断性の節理が卓越する。 29.74~29.76m: ごく小規模な破砕部。 上盤70°、白色粘土2mm、下盤67°、マンガン汚染顕著。上盤側は幅10mmで一部で変質を伴う。 30.10~30.66m: 低角度の割れ目が優勢である。 30.62~30.73m: この間、やや不規則な形状の高角度の割れ目が2条見られ、マンガンが3~5mmの厚さで析出している。 31.77~31.93m: やや低角度の微細な割れ目が、ほぼ平行に密集する。 31.87~31.91m: 剪断を受ける。上盤45°、暗緑灰色の粘土~シルトを3mm伴う。下盤40°。上下盤の間はやや緑色味を帯び軟質である。 32.36~32.39m: 20~30°程度の剪断性の節理が平行して集中する。 32.68~32.73m: 30°程度の節理がほぼ平行して集中する。緑レン石の薄い脈が3条見られる。 33.00~33.62m: 30~50°の割れ目が優勢。割れ目に沿って明瞭な劣化が見られるものが多い。 34.30~34.42m: 割れ目が集中し礫~岩片状コアとなる。人為的? 34.55m付近、局所的(連続しない)に低角度で破砕され細礫状となる。 35.60~35.78m: 低角度のほぼ平行した割れ目が集中し脆弱となる。割れ目沿いに白色の鉱物脈が見られる所が多い。 35.72m付近、剪断破砕を局所的に受け礫状となる。 36.14~36.35m: この間割れ目がやや卓越する。 36.98~37.10m: 高角度の割れ目に沿って劣化する。厚さ12mmで細礫~砂状となる。
						CM'	100	9	0				
						CL'	100	15	15				
						CL'	100	11	21				
						CL'	100	13	25				
						CL'	100	12	12				
						CL'	100	10	22				
						CL'	100	17	27				
						CL'	100	12	22				
						CL'	100	14	14				
			+	花崗斑岩	灰白	にぶい橙	100	10	22	●	●	●	34.30~34.42m: 割れ目が集中し礫~岩片状コアとなる。人為的? 34.55m付近、局所的(連続しない)に低角度で破砕され細礫状となる。 35.60~35.78m: 低角度のほぼ平行した割れ目が集中し脆弱となる。割れ目沿いに白色の鉱物脈が見られる所が多い。 35.72m付近、剪断破砕を局所的に受け礫状となる。 36.14~36.35m: この間割れ目がやや卓越する。 36.98~37.10m: 高角度の割れ目に沿って劣化する。厚さ12mmで細礫~砂状となる。
						にぶい橙	100	10	10				

柱状図(37.00m~53.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取率 (%)	最大 コア長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm)	R Q D (%)	記事
40			+	花崗斑岩	浅黄	CL'	100	28	28		<p>37.36m: 25° の割れ目に沿って厚さ4mmの暗褐色のシルト~砂が挟まる(流入?)。</p> <p>37.36~37.98m: 割れ目の汚染は明瞭であるが挟在物は見られない。</p> <p>38.08~38.96m: 挟在物が見られる割れ目は、38.53mの高角度のものが1条のみ。</p> <p>38.96m以深: 割れ目に沿って劣化するものが多い。</p> <p>39.21m、39.60~39.65mでは、割れ目沿いに劣化し、幅10mm以下で砂~細礫状となる。</p> <p>40.64~40.93m: 割れ目が卓越し、割れ目沿いの劣化が明瞭、砂~細礫となる所が多い。割れ目沿いに変質している。</p> <p>40.95~41.00m: 割れ目沿って劣化、細礫状となる。</p> <p>41.00~41.20m: 低角度と高角度の割れ目が交叉し、亀甲状となる。割れ目沿いに劣化が見られるものが多い。</p> <p>41.37~41.47m: ほぼ平行的な割れ目が集中、割れ目沿いの劣化が明瞭で脆弱。</p> <p>41.80~41.91m: 割れ目沿いの劣化が顕著で非常に脆弱である。</p> <p>42.12~42.25m: 割れ目に沿った劣化が顕著。一部固結した砂状となる。粘土なし、鏡肌なし。</p> <p>42.35m: 25° の割れ目に厚さ2~3mmのマンガン挟在。</p> <p>42.38~42.46m: 局所的に固結した砂に岩片が混じる。褐色汚染も明瞭。</p> <p>43.05m: 剪断破砕をこく小規模に受ける。角度32° 幅10mm、上盤は石英脈を伴う。下盤は粘土2mm。</p> <p>43.06~43.15m: 岩片状コア(人為的なものを含む)。</p> <p>43.54~43.65m: 変質及び風化の為脆弱となる。43.63m白色の変質脈、粘土化はしていないが軟質。</p> <p>43.80~44.21m: 低角度の割れ目が卓越し、コアも軟質となり、表面はザラつく。</p> <p>44.46m: 42° の割れ目に沿って褐色汚染顕著。周辺には絹雲母と白鉄鉱(黄鉄鉱の分解途中)が散在し光る。</p> <p>45.10m: 剪断性の節理。上盤側は一部幅20mmで脆弱となる。絹雲母が散在し光る。</p> <p>45.42~45.62m: 微細な割れ目が集中し、コアも軟質で表面がザラつく所が多い。</p> <p>45.73~45.80m: 割れ目沿いに劣化し、礫状~砂状となる。</p> <p>46.10~46.35m: 60~70° の割れ目が集中する。挟在物が見られる割れ目もあるが、汚染はほとんど見られない。</p> <p>47.11~47.32m: 微細な割れ目が網目状となる。割れ目沿いの劣化も見られ軟質、脆弱となる。</p> <p>47.36~47.53m: 高角度と低角度の割れ目が交叉し格子状となる。割れ目の汚染は見られないが砂状の挟在物が見られる。</p> <p>47.7m以深: 微細な割れ目が卓越し、脆弱となる。47.76~47.88m間は、割れ目沿いのマンガン汚染が明瞭。</p> <p>48.38m: 破砕部</p> <p>上盤52° 下盤45° 幅30mm。やや赤味を帯びる。</p> <p>49.18m: 剪断性の節理。63° 上盤側幅20mm劣化し脆弱となる。</p> <p>49.43m: 白色の鉱物脈風化しやや軟質。幅4mm、角度47° 。</p> <p>50.05m: 70° の開口割れ目にマンガン厚さ5mm析出。</p> <p>50.39~50.60m: 劣化しコア全体が軟質、表面は砂状となる所がある。軟質脆弱。</p> <p>50.58~50.92m: 白色細脈が不規則に入る。</p> <p>51.20~51.43m: 微細な割れ目が卓越し亀甲状となる。割れ目に沿って淡い桃色脈(カリ長石)が見られる所が多い。</p> <p>51.66~51.97m: 微細割れ目が非常に卓越(30~50°)。コアは軟質となる。</p> <p>52.38~52.44m: 微細な割れ目が密集。コアは局所的に礫状となる。上盤側の割れ目に厚さ4mmのマンガン挟在する。</p> <p>52.44~53.35m: 低角度の割れ目が卓越。割れ目に沿った褐色汚染は軽微である。</p> <p>52.90m: 45° の割れ目沿いに変質した白色鉱物脈厚さ4mm。汚色汚染明瞭。</p>	
						CH'	100	22	56			
						CM'	100	15	29			
						CL'	100	8	0			
						CL'	100	6	0			
						CL'	100	4	0			
						D'	100	3	0			
						CL'	100	21	21			
						CL'	100	8	0			
						CM'	100	10	10			
						CL'	100	9	0			
						CM'	100	5	0			
						CL'	100	11	21			
						D'	100	6	0			
						CL'	100	11	11			
						CL'	100	6	0			

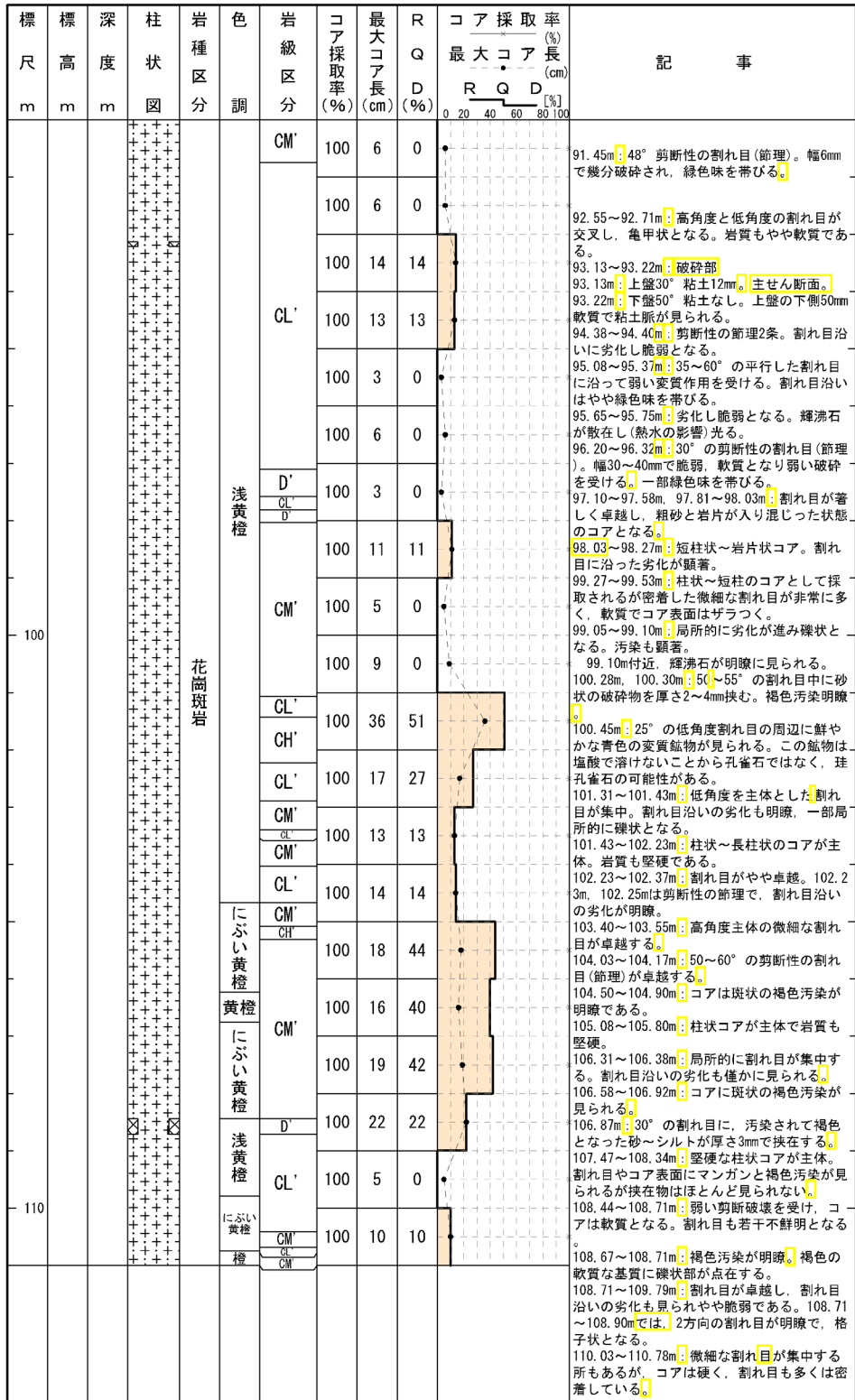
柱状図(53.00m~71.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm)	R Q D (%)	記事
60			+	花崗斑岩	にぶい橙	明黄橙	CL'	100	4	0		<p>53.54~53.59m: 割れ目沿いの劣化が明瞭で、コアの一部は細礫~砂状となる。</p> <p>53.74mの高角度の割れ目に沿って劣化し、一部細礫状となる。</p> <p>54.66~54.73m: 50~60°のほぼ平行な割れ目に沿って劣化。一部礫状となる。褐色汚染も顕著。</p> <p>54.96~55.55m: 低角度の割れ目が非常に卓越する。</p> <p>55.56m: 50°の割れ目間に厚さ8mmで砂が挟在する。褐色汚染も明瞭である。</p> <p>56.45~56.61m: 高角度と低角度の割れ目が交叉し亀甲状となる。</p> <p>56.74m: 71°の割れ目に褐色粘土厚さ3mm挟在。</p> <p>56.88~56.98m: 約50°のほぼ平行した微細な割れ目が卓越。一部礫状コアとなる。</p> <p>57.24~58.50m: この間多くの割れ目に褐色汚染が見られる。</p> <p>57.54~57.74m: 割れ目沿いに劣化。軟質脆弱。</p> <p>58.06~58.71m: 砂状の挟在物が見られる割れ目が多いが岩質は硬い。</p> <p>59.02~59.34m: 潜在的なものを除き、割れ目のない柱状コア。岩質も硬い。</p> <p>60.07~60.45m: 微細な割れ目が卓越し、コアも軟質となる。割れ目沿いにコア表面は凹む所が多く、ザラつく。</p> <p>60.45~60.82m: 低~中角度の平行に近い割れ目が卓越。割れ目に沿った褐色汚染が明瞭。</p> <p>60.82~61.72m: 微細な割れ目が卓越。コアも軟質で脆弱。特に61.40~61.58m間は劣化が顕著。</p> <p>61.72~62.36m: コアは若干硬くなるが、不規則で微細な割れ目が非常に卓越する。コアは軟質となり、表面がザラつく。</p> <p>62.36~63.28m: コアは軟質となり、表面がザラつく。低角度がやや優勢な不規則で微細な割れ目が卓越する。</p> <p>62.75m: 断断性の割れ目(節理)、幅10mm、やや緑色味を帯び、褐色汚染が明瞭。</p> <p>63.00~63.26m: 劣化し全体に軟質脆弱。割れ目に砂やシルトが生じている。</p> <p>63.62~63.90m: 全体に軟質脆弱。亀甲状の割れ目には灰白色のシルトが生じている。</p> <p>63.90~64.30m: 変質し軟質。割れ目は不鮮明となり、やや緑色味を帯びる。</p> <p>64.65~64.91m: 破碎部</p> <p>64.65m: 上盤65°。粘土3mm</p> <p>64.91m: 下盤65°(やや不鮮明)。これより上位礫状。</p> <p>上下盤の間に剪断面2条あり</p> <p>65.59~65.72m: 破碎部</p> <p>幅10mm、砂~礫状</p> <p>65.59m: 65°上盤</p> <p>65.72m: 62°下盤。部分的に灰白色粘土2~3mm。明瞭なガウジは無い。</p> <p>66.30m以浅、割れ目が卓越し、やや脆弱であるが褐色汚染は見られない。</p> <p>66.30~67.28m: 割れ目沿いに褐色汚染が見られる。特に66.80~66.95mの60~70°の高角度の割れ目沿いは顕著。</p> <p>66.97~67.28m: 割れ目が交叉し、細かい亀甲状となる。</p> <p>67.28~67.75m: 変質部。軟質でやや赤味を帯びた灰白色を呈す。割れ目は不明瞭となる。粘土化進む。</p> <p>68.07m以深、割れ目が卓越しコアも軟質で表面はザラつく。</p> <p>68.70m: 30°の割れ目。黄褐色粘土を厚さ8mm挟む。</p> <p>68.97~69.08m: 細礫~砂状コア。粘土なし。</p> <p>69.28~69.33m: 割れ目沿いに劣化。細礫状となる。</p> <p>69.63~69.77m: 高角度と低角度の割れ目が交叉。高角度の割れ目沿いに劣化が明瞭。</p> <p>69.85~70.00m: 割れ目密集。岩片状コア。</p> <p>70.06m付近、60°幅20~30mmで局所的に弱く破碎され脆弱となる。</p>
							CL'	100	9	0		
							CL'	100	7	0		
							CM'	100	10	10		
							CL'	100	6	0		
							CM'	100	19	32		
							CL'	100	32	44		
							CL'	100	4	0		
							CL'	100	3	0		
							CL'	100	3	0		
							CL'	100	6	0		
							D'	100	4	0		
							CL'	100	3	0		
							D'	100	3	0		
							CL'	100	2	0		
							CL'	100	3	0		
							CL'	100	9	0		
							70			+		
CL'	100	3	0									
D'	100	3	0									
CL'	100	3	0									
CL'	100	3	0									
CL'	100	3	0									
CL'	100	3	0									
CL'	100	3	0									
CL'	100	3	0									
CL'	100	3	0									
CL'	100	3	0									
CL'	100	3	0									
CL'	100	3	0									
CL'	100	3	0									
CL'	100	3	0									
CL'	100	3	0									

柱状図(71.00m~91.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D [%]	記 事	
80			+	花崗斑岩	淡橙	CL'	100	5	0	0	<p>71.22m: 60°、71.25m: 54° の剪断性の割れ目(節理)。 この間、幅20~30mm脆弱となる。 71.25~72.73m: この間やや軟質でコア表面はザラつく。 72.33m: 32° の割れ目間に、一見腐植土のようなマンガンに汚染された細粒物と破砕物と思われる暗緑灰色の固い砂状のものを挟む。厚さ8~15mm。 73.56m: 65° の割れ目に暗褐色に汚染されたシルト質の砂を4~10mm挟む。 74.16~74.34m: 30~50° の割れ目が密集する。脆弱。 75.05~75.29m: 20~40° の低角度の割れ目がほぼ平行して卓越する。 75.77~76.25m: 割れ目沿いに劣化が見られ、やや脆弱となる。</p> <p>77.48~77.67m: 割れ目、特に低角度のもの沿いに劣化が見られコアは軟質となりザラつく。 77.96~78.08m: 割れ目に沿って劣化が見られ砂状の挟在物が明瞭。 78.21~78.51m: 多方向の割れ目が卓越し、やや脆弱。 79.45~79.52m: マンガンの短い筋状の汚染が多数見られる。高角度のものが多く、この筋上に割れ目として認識できるものは少ない。 80.13~80.29m: 35~55° の同方向の割れ目が密集する。 80.29~80.51m: 割れ目の頻度はやや少なくなるが、割れ目沿いの劣化は明瞭。 80.51~81.02m: 割れ目には挟在物が見られるものが多いが、岩質は硬い。 81.30~81.96m: 割れ目の挟在物も薄く、岩質も硬質。高角度の微細な割れ目が見られるが、完全に密着している。 83.08~83.32m: 割れ目に沿った褐色汚染が明瞭。汚染は、割れ目沿いのみならずコアの半分程度に及ぶ。 84.09~84.77m: 割れ目が卓越し、岩質も軟質となる。特に84.39~84.58m間は劣化が進み、脆弱。 85.73~85.97m: 高角度の2条の割れ目に挟まれた範囲で割れ目が卓越。岩片状となる。 86.73~86.83m: 上下の割れ目(節理)に挟まれた区間で局所的に砂~礫状となる。 86.96~88.03m: 割れ目面や割れ目沿いは、褐色やマンガンの汚染が明瞭であるが、挟在物はほとんど見られない。岩質も硬い。 88.96m: 45° の割れ目の下盤側劣化は局所的に非常に脆弱。 上盤側は幅20mmマンガンの汚染がコアに明瞭。 89.27~89.44m: 微細な割れ目が卓越する。コアも幾分軟質。 90.75~91.96m: 微細な高角度の割れ目が卓越する。高角度の割れ目は、50° 以下の低角度の顕在化した割れ目に切られるものが多い。</p>	
							100	5	0	0		
							100	8	0	0		
							100	7	0	0		
							100	6	0	0		
							100	8	0	0		
							100	6	0	0		
							100	13	13	0		
							CM'					
							CM'					
							CL'	100	14	14		0
							CM'					
							CL'	100	13	24		0
							CM'					
							CM'	100	15	26		0
							CL'	100	13	13		0
							CM'	100	12	34		0
							CL'	100	8	0		0
CL'	100	9	0	0								
CM'	100	13	23	0								
CM'												
CM'	100	23	62	0								
CL'	100	13	24	0								
CM'												
CL'	100	8	20	0								
CM'	100	17	17	0								
90			+	浅黄橙		CM'						

柱状図(91.00m~111.00m)



柱状図(111.00m~131.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm)	記事		
												R	Q
			花崗斑岩		橙	にぶい黄橙	CM'	100	16	16		111.57m付近、局所的に割れ目面が鮮やかな青緑色に変色している。	
							100	11	31	112.84~113.03m: 高角度の割れ目が優勢である。シャープな割れ目は見られないが挟在物は無く、弱い褐色汚染が認められる。			
							100	11	11	113.41~113.54m: 割れ目がやや卓越する。113.43mの割れ目沿いに劣化が見られ幅5~30m軟質脆弱となる。			
							100	15	26	114.57~114.76m: 割れ目が卓越する。114.60~114.66mでは、40°程度の平行した割れ目が密集。114.73m付近は礫~岩片状となる。			
							100	22	57	115.40~115.54m: 115.46m付近の2条の潜在的な割れ目を中心に褐色汚染が明瞭。黄鉄鉱の分解により生じた水酸化鉄である。			
							100	21	47	116.30m: 57°の割れ目間に厚さ5mmの褐色に汚染された砂状の挟在物が見られる。			
							100	30	72	116.52~119.32m: 柱状~長柱状の堅硬なコアが主体となる。			
							浅黄橙	CH'	100	24		86	117.83m: 50°の割れ目に沿って熱水変質が見られ、やや緑色味を帯びる(緑泥石化作用)。割れ目の周囲には輝沸石が生じている。
							にぶい黄橙	CM'	100	30		30	119.65~119.83m: 割れ目がやや卓越する。割れ目面には、マンガン及び褐色の汚染が明瞭で、一部の割れ目面には砂~シルト状の挟在物が見られる。
							浅黄橙	CL'	100	32		55	120.10m以浅: 割れ目に沿って変質が見られ幅2~4mm軟質となる。
							にぶい黄橙	CH'	100	28		83	120.31m付近、65°の平行な割れ目が集中。砂~礫状の挟在物が見られる。
							浅黄橙	CM'	100	28		83	120.40m: 58°の比較的シャープな割れ目。緑灰色の変質脈と厚さ2mmの水酸化鉄を伴う。
							にぶい黄橙	CH'	100	36		36	120.40~122.54m: 堅硬な柱~長柱状のコア。褐色汚染が見られる割れ目が多い。
							浅黄橙	CL'	100	8		0	121.60m: 割れ目沿いの一部が脆弱で細礫状となる。白色のシルト状の挟在物が見られる。
							浅黄橙	CL'	100	8		0	122.46m: 割れ目の周囲が変質により緑色味を帯びる。輝沸石が散在し光る。褐色汚染顕著。
							にぶい黄橙	CH'	100	26		71	122.54~123.84m: 顕在化した割れ目の他、微細な割れ目が多い。
							浅黄橙	CM'	100	20		47	123.00~123.26m: 高角度の割れ目には厚さ1~6mmの二酸化マンガンが挟まる。割れ目が集中し脆弱である。
							にぶい黄橙	CH'	100	14		24	123.85m: 60°の割れ目に厚さ3mmの褐色に汚染された砂が挟在する。
							浅黄橙	CM'	100	12		12	124.09m以深: 柱状コアが主体となり、岩質も硬い。124.30m以浅は割れ目に挟在物が見られる。
							明黄橙	CL'	100	8		0	125.37m付近、局所的に微細な割れ目が集中する。
							浅黄橙	CL'	100	8		0	126.34~126.69m: 柱状コアであるが、肉眼では認識できない潜在的な割れ目(へき開面)に沿って褐色汚染、汚染はコア全体に及ぶ。
							にぶい黄橙	CM'	100	32		43	127.00~127.83m: 不規則で微細な割れ目が卓越。
							浅黄橙	CL'	100	9		0	127.06~127.30m: 軟質でコア表面はザラつく。変質の影響で割れ目に沿って緑色味を帯びる所がある。
							明黄橙	CM'	100	9		0	128.26~128.76m: 微細な割れ目が卓越。割れ目沿いに褐色汚染が見られる。
							明黄橙	CL'	100	9		0	128.90~129.15m: 割れ目沿いに劣化が見られ、一部の割れ目は礫状となる。
							明黄橙	CM'	100	9		0	130.02~130.42m: 高角度の割れ目が見られ、その割れ目沿いに劣化、一部礫状となる。
							明黄橙	CL'	100	9		0	130.84m付近、交叉する割れ目に挟まれた区間が局所的に劣化し、礫状となる。

柱状図(131.00m~140.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm)	R Q D [%]	記事
			+	花崗斑岩	にぶい黄橙	CH'	100	33	46			131.54~131.64m: コアの半分が劣化し礫状となる。
						CH'	100	26	45		132.14~132.87m: 堅硬な柱状コア。	
						CM'	100	26	57		132.87m: 60°の割れ目にマンガンが厚さ3mmで挟在する。	
						CH'	100	14	45		133.26m: 割れ目間が礫状となり、礫には褐色の細粒物が付着する。	
						CM'	100	22	38		134.02~134.50m: 強い褐色汚染がコア全体に及ぶ。	
						CH'	100	9	0		134.50~134.74m: コアはやや青味を帯びる。風化の影響は少ないが、珪化し、原岩以上に硬い。	
						CL'	100	9	0		134.78m付近、黄鉄鉱の分解過程の白鉄鉱が少量見られ、その周辺には褐色汚染がせまい範囲に及ぶ。	
						CM'	100	24	54		135.28~135.60m: この間の低角度割れ目は2~3条の割れ目が2~4cm程度の距離で平行に接している。岩質は硬い。	
						CL'	100	16	28		136.00~136.20m: 高角度の割れ目が見られ、低角度の割れ目と交叉し、割れ目がやや卓越する。割れ目にはマンガンに汚染された挟在物が見られるものがある。	
						CH'	100	9	0		136.34mの38°の割れ目に沿って緑色味を帯びた変質部(緑泥石化作用)が見られ、その中に小さな輝沸石が散在し光る。	
						CM'	100	9	0		136.61m: 局所的(5~15mm幅)に割れ目が密集し、マンガンの汚染が見られる。	
						CL'	100	9	0		137.02~138.59m: 堅硬な柱状コア。	
						CL'	100	9	0		138.01~138.16m: 微細でほぼ平行した割れ目が非常に卓越する。	
											138.29m: 幅10mmで平行した割れ目が非常に卓越する。	
							139.90m: 70°のシャープな剪断性の節理、幅10mmの砂状とマンガンの挟在物が見られる。上盤側には平行な割れ目が3条見られる。					

H27-B-4

コア写真(0.00m～18.00m)



H27-B-4

コア写真(18.00m～36.00m)



H27-B-4

コア写真(36.00m～54.00m)



コア写真(54.00m~72.00m)

